

リーブラ便り

2010年11月 VOL. 19



リーブラのマークは、「男女平等」の願いをこめた「てんびん座（リーブラ）」をモチーフにしています。

目次

1. 「女性に対する暴力をなくす運動」
 2. リーブラ特別展示「女性に対する暴力をなくすため私たちにできること」
 3. 講座案内／報告
 4. 国立女性教育会館・女性関連施設
相談員研修について
 5. リーブラ創立30周年
 6. 男女共同参画週間記念
フォーラム2011
 7. 運営協議会
 8. 心のサポートルーム便り
 9. 男女平等参画関連情報
- ★別紙 11月の新着図書ご案内



リーブラ特別展示
「女性に対する暴力をなくすため
私たちにできること」
11月6日～25日

「女性に対する暴力をなくす運動」とは？

暴力は、その対象の性別や加害者と被害者の間柄を問わず、許されるものではありません。特に、配偶者からの暴力、性犯罪、売買春、人身取引、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為など「女性に対する暴力」は、女性の人権を侵害するものであり、男女平等参画社会を形成していく上で克服すべき重要な問題です。

また、国際的にも重大な問題とされており、1999年、国連総会は11月25日を「女性に対する暴力撤廃国際日」として指定し、各国政府、国際機関、NGOに対して、この問題に関して世論の意識を高めるための活動をこの日に行うように促しています。

リーブラ特別展示 「女性に対する暴力をなくすため私たちにできること」

11月6日（土）～25日（木）リーブラ特別展示「女性に対する暴力をなくすため私たちにできること」を開催しました。

女性に対する暴力をなくすためのさまざまな取組・活動を知ることや、思いを込めた作品に触れること、また作品を製作することを通して、「女性に対する暴力」という大きなテーマを捉え直すきっかけを作りたいと考えました。

展示の趣旨に賛同いただいた多くの団体の皆様に参加いただき、思いのこもった作品・活動の紹介を展示することができました。作品それぞれに力があり、小川のせせらぎが、やがて大河となるように、私たち一人ひとりの力は小さくても、

それが社会の変化をつくり出す、第一歩となるのではないかと感じさせられました。

「女性に対する暴力をなくすため私たちにできること」とはまずは知ること、伝えること、そして自分のことから小さなことでも行動すること、なのかもしれません。これからもぜひ皆様と共に考え、取り組んで行きたいと思います。

【リーブラ特別展示参加施設・団体資料提供（順不同）】
国立女性教育会館、NPO法人男女平等参画推進みなと、NPO法人ヒューマンサービスセンター、劣化ウラン廃絶みなとネットワーク、パープルアイズ、SEDA、ハンディ&シニア企画桜の会、雅象彩絵高輪支部、なないろカフェ、川崎市男女共同参画センターすくらむ21

【講座実施報告】

●10月8日 企業向け講座 「今から始めるMyキャリアデザイン」

港区内自動車販売会社の女性社員30名に対しリーブラ企画講座を実施しました。講座の始めにリーブラの紹介・行動計画などを説明した後、受講者には自己の仕事の振り返り、自己分析、先を見据えて目標設定をするなど、新たな視点と知識をもっていただくような構成にしました。また、働き続けることの阻害要因を内的・外的要因に分けて抽出。男女平等についての企業や社会における身近な問題点を、社員の声として取り上げることができました。

●10月15日 再就職支援講座「気持ちとスキルのたな卸し」

実現可能な働き方を見つける方法を①キャリアデザイン②サポーターリスト③キャリアの価値観という3点から考えてみる講座。今、受講者がおかれている環境（事実）にもとづいた演習を実施したことで、再就職にあたり具体的に何を考え整理するべきかを各々把握できた様子でした。また就職という一つの事柄だけにとらわれず、キャリアを広義でとらえるという新たな学びがあり、受講者自身がキャリア(人生)を作っていくのだという当事者意識も高まっていました。

男性学講座 オトコはつらいよ!?

12月4日(土)
14:00~16:00

男性学講座
オトコはつらいよ!?
—男性学を学んで、生き方・考え方を振り返る—

これまで男性の生き方の中心は「仕事」であると言われてきましたが、定年後の男性の生活や若い世代の不安定な雇用状況が問題となる中、仕事中心ではない男性の生き方や価値観の見直しに注目が集まっています。こうした男性のあり方に目を向け、男性が男性であるがゆえに抱えてしまう「男性問題」を取り上げてきたのが男性学です。

講座では、男性学の日本社会における開始とその過程、さらに新展開の状況を話していただき、「男らしさ」「男性性」やそれに関わる問題を日常生活の具体的な例から振り返ります。

「男性学」を学びたい、自分の生き方・考え方を振り返りたい、男性の生きづらさについて知りたい、様々な関心からの参加をお待ちしています。

◆日時：12月4日(土)14:00~16:00
◆講師：田中俊之さん(学習院大学学芸学部講師)
◆場所：港区内自動車販売センター4階 集会室3
◆参加費：無料
◆対象：どなたでも
◆授業料(申込費)：1歳から高校生まで
※要予約 募集の申込は11月18日(金)まで
◆申込：文庫部

申し込み方法：
電話・FAX・メールにて
(要予約)ご申し込みください。

11月12日(日)までにご相談ください。

日程：12月4日(土)
時間：14:00~16:00

場所：リーブラ4階・集会室3
講師：田中俊之さん
(学習院大学講師)

参加費：無料
対象：どなたでも

申込：FAX・メール・電話・
窓口にて受付

これまで男性の生き方の中心は「仕事」であるとされてきましたが、定年後の男性の生活や若い世代の不安定な雇用状況が問題となる中、仕事中心ではない男性の生き方や価値観の見直しに注目が集まっています。こうした男性のあり方に目を向け、男性が男性であるがゆえに抱えてしまう「男性問題」を取り上げてきたのが男性学です。

講座では、男性学の日本社会における開始とその過程、さらに新展開の状況を話していただき、「男らしさ」「男性性」やそれに関わる問題を日常生活の具体的な例から振り返ります。

「男性学」を学びたい、自分の生き方・考え方を振り返りたい、男性の生きづらさについて知りたい、様々な関心からの参加をお待ちしています。

平成22年度学習活動支援事業 「ピアカウンセリンググループ・ 自助グループ立ち上げに関して学ぶ」

日程：12月 9日(木)
16日(木)
23日(木・祝)

時間：13:00~17:00
場所：リーブラ4階・学習室D
学習コーディネーター：
あい宏枝さん
講師：16日 野本律子さん
参加費：各回1,000円(作業で
使う天然石・パワーストーン等
の材料費含む)
対象：どなたでも
定員：各回先着順20名
保育：ご相談下さい
申込：メールにて受付
申込先：全性平等委員会
あい宏枝
ai_ai@t.vodafone.ne.jp
(↑アンダーバー2つです。)

※9日に出席した方のみ16日
の講座がうけられます。

「支援する側」と「される側」という関係でなく、対等な関係で学びあうピアカウンセリング・自助グループの立ち上げについて、参加者が自律的に学ぶ講座です。グループの立ち上げから運営、継続について互いに話し合います。

1回目は手作業をしながら安心・安全の体験をします。2回目(12月16日)は講師に、長年DV被害者支援活動に携わる野本律子さんをお迎えします。3回目は会の運営・維持について話し合います。

お手伝いスタッフを募集中です。会費はいただきますが、作業に使う素材が先に選べます。お申込みのメールに「スタッフ希望」と書いて、お送りください。



学習活動支援事業報告 劣化ウラン廃絶みなとネットワーク

去る10月17日~31日まで「豊田直巳写真展・イラク戦争と劣化ウラン—今も続く被害者の苦しみ」を3階廊下に展示した。豊田直巳さんの写真はリーブラでは初めての展示だった。黒を背景に、イラクが直面した戦争の被害の現実を写し撮った写真が生々しく表現されていた。



観ているとイラクの民衆の置かれている厳しい現実と苦悩がありありと想像され目頭が熱くなってきた。廊下を通る人たちも足を止めて見入っている姿が見受けられた。激しい劣化ウラン弾攻撃を受けたファルージャではおびただしい奇形児が生まれ国際的に問題になっていると聞く。

戦争の犠牲になるのはいつの時代もまず子供や女性たち。

お話会で講師の山崎久隆さんは、国連の場では劣化ウラン禁止決議が論議され、多くの賛成国をよそにアメリカ、イギリス、フランスなどの大国が反対している現状が報告された。

「男女平等は非戦から」と決意を新たにした。

報告 劣化ウラン廃絶みなとネットワーク 宮口高枝



【平成22年度 国立女性教育会館・女性関連施設相談員研修について】

10月7日～9日、独立行政法人国立女性教育会館にて、男女共同参画・女性教育・家庭教育の課題である、配偶者からの暴力や児童虐待、関連機関との連携等の解決に必要な知識の習得と相談技能の向上を目的とする専門的研修会が開催され、全国から女性関連施設の相談員が参加しました。

研修では、「相談業務の意義と課題」「配偶者からの暴力事例の理解と相談の受け方」「困難事例への対応と留意点」をはじめとして、「相談ニーズを事業化する」をテーマに、相談から見える悩みに相談員としてどのように対応し、地域のニーズと捉え、事業化し、相談者のエンパワーメントにつなげていったらいいのか、その方法や工夫を学ぶ機会となりました。本研修によって、女性関連施設において相談事業は男女共同参画推進をすすめていく上で大きな柱となっていることを、あらためて確認しました。また、相談事業によって個人の抱える問題から社会的なニーズを把握し、明らかになった課題を学習啓発事業に反映させたプログラムを組むなど、事業との連携を図ることで、男女共同参画推進につながる事が実感できました。今後、リーブラ相談室からの事業展開に参考にしていきたいと考えています。

婦人会館から男女平等参画センターへ リーブラ創立30周年

婦人の活動をサポートする「婦人会館」時代

1980年に開館した「港区立婦人会館」は、開館の翌年から「婦人会館文化祭」と称して、団体の活動発表の場を設けます。活動の成果を発表する文化祭は、現在2月に実施されているフェスティバルへと受け継がれています。また、相談コーナーも開設し、婦人問題、結婚相談、消費生活相談健康相談を受け付けるようになります。相談件数でもっとも多いのは消費生活相談。クリーニングの事故が増えている一等の報告を見ると、時代の流れを感じます。健康相談では医師を招いて、内科や婦人科の健康相談を受け付けていたようです。婦人会館にたくさんの役割が期待されていたことがわかります。さて、開館後約1年半後の1987年の年末に来館者は23万人を突破します。これを記念して最初のマスコットマークが公募されます。懐かしく思われる皆様も多いのではないのでしょうか。創立10周年には述べ利用者85万人を突破。

その後、施設改修時には西新橋で『西桜幼稚』と一緒に仮施設で業務を続けました。1995年15周年を記念して、館の名称が『港区立女性センター』となります。

男女共同へ、女性センターへの変遷

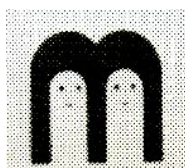
「婦人会館」が「女性の教養及び生活文化の高揚を測り、女性の地位向上に寄与する」目的で事業を展開されたのに加え、「女性センター」では「男性も女性もともに平和を愛し、いきいきと平等に暮らせる差別の無い地域社会の実現」という「男女共同社会の実現を目指す」目的へと転換していきます。男女平等のシンボルとして天秤座＝『リーブラ』の愛称が付けられ、機能の充実が期待されます。

「男女平等参画センター」へ

さらに、2004年(平成14年)には「港区立男女平等参画センター条例」の施行により現在の「港区立男女平等参画センター」となります。「区民や団体が地域で男女平等参画を進める拠点施設として位置づけられます。翌年2005年には「第一回男女共同参画週間記念フォーラム」が開催され、現在も登録団体の皆さん、リーブラ、区民、港区が協働して「フォーラム」が毎年開催されるに至っています。



現在のマスコットマーク
男女平等のシンボルとして、天びん座、英語でリーブラの愛称です。



初代マスコットマーク
『学習』『ふれあい』『交流』の3本柱を港区の頭文字Mで結び、ともに学びともに歩む女性をあらわしています

アンケートに見る男女平等の進展

昭和59年発行の「婦人のひろば」で港区婦人意識調査の結果が掲載されています。平成20年の港区在住・在勤者の意識・実態調査の結果と比較してみましょう。職場での男女平等について「職場で女性は差別されているか、保護されているか？」(昭和58年)「職場で男女、どちらが優遇されているか？」(平成20年)という質問の回答を比較しました。

		差別されている	差別も保護もされていない	保護されている
昭和58年	女性	61.3%	15.9	14.8
	男性	41.9	19.5	30.5
平成20年	男性が優遇されている	70.3%	男女平等	女性が優遇されている
			18.2	6.1

(港区在勤)

まず注目すべきは質問の項目でしょう。昭和58年では「女性は差別されているか保護されているか」という質問項目になっています。まだまだ、男女が平等な関係ではなく、女性は保護すべき存在であり、対等な関係として捉えられていなかった感があります。それに比して、25年後の平成20年では、対等な関係の上立った「優遇」という考え方に変化していることが伺えます。但し、優遇されているとは言いがたく、7割の在勤者が「男性が優遇されている」と回答しているところは、男女の関係性がどう変化しようと、25年経っても、職場での男女平等は進んでいないといえます。ただ、昭和58年に男性の4割しか女性の差別を認識していなかったのに比べ、平成20年には、男女あわせて7割の人が男性優遇を認識しているという点では、男性の間に、「男女平等の意識の高まりがあった」とも読める結果になっています。

<企画運営委員会スタート！>

2005年にはじまった男女共同参画週間記念フォーラム。2011年度は7回目の実施になります。来年度から実施にあたっては、区民の皆さんによる主体的な運営を目指し、企画運営委員会の組織作り、開催方針や要綱の整備など、これまで出てきた問題についてじっくり検討するため、例年より早く委員会を立ち上げました。（委員は9名）また委員会名を「企画委員会」から「企画運営委員会」に改めました。委員の皆さんには企画のみならず運営にも取り組んでいただき、団体や個人のパワーアップにつなげていきます！

<伝えたいメッセージ>

10月からスタートした企画運営委員会。男女平等を推進するためのフォーラムで、リーブラからのメッセージとして「何を伝えたいのか、どのように伝えたいのか」その方向性を企画運営委員会において合意し、共通の認識を持つ事が、最初の大きな仕事です。思いを一つにして発信できるよう、現在議論を展開中です。

11月4日、運営協議会が開催されました。

【議題】報告事項

- ①30周年記念式典 進捗状況
- ②10月の事業報告
- ③フォーラム企画委員会
- ④パワーアップ・学習活動支援事業
- ⑤フェスティバル実行委員長より進捗報告

フェスティバル実行委員長より、委員会の進捗状況について報告がありました。本年度は委員会発足時より物品販売の基準について、今までより制作費や仕入価格、収支報告を明確にするべきという意見と、それは信頼関係の喪失や自主的な活動の妨げになるのではないかとという意見があり、議論は平行線をたどっていました。

フェスティバルをよりよくしたいという思いは全員同じ。運営協議会からの意見も考慮し、委員会内での相互理解を深め、協力体制を強化していくことが必要です。

リーブラでは、11月6日、弁護士による法律相談会と講演会「女性のための離婚のイロハー早めの相談は良い結果に一」を開催し、当日の相談会には、定員を超える申し込みがありました。リーブラ相談室にも、夫婦や離婚の問題で相談に訪れる人は少なくありません。離婚に悩む人は、子どもへの影響や経済的問題、仕事や健康のことなど、女性はとくに考えなければならない問題をたくさん抱えています。通常、相談室では、法律相談ではなく、心理カウンセリングを行っています。相談員は、相談にいらした方もつれた糸をほどくように、丁寧な対応を心がけています。

<開室曜日・開室時間>

- 火曜日 16:00～20:00
- 水曜日 10:00～16:00
- 金曜日 10:00～16:00
- 金曜日 18:00～21:00

相談室(専用電話)
03-3456-5771

<男女平等関連情報> カラープロジェクトあれこれ



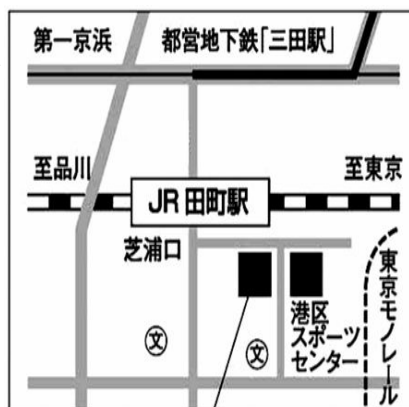
ここ数年、何らかの問題に対する関心と呼びかけたり、そうした活動への支援を表明するために特定の色を使うプロジェクトが国内外で行われています。個人や集団で特定の色のリストバンドやリボンを身につけたり、ビルなどをその色で短期間ライトアップしたりするのをご覧になったことのある方も多いと思います。

一つの色が複数の活動のシンボルとなっていることもあります。現在使われているものとしては、乳がんの知識と早期検診を広めることを呼びかけるピンクリボン、子どもの虐待防止を呼びかけるオレンジリボン、エイズ患者への理解と支援を呼びかけるレッド・リボンなどがあります。また逆に、複数の色を使うことでセクシュアリティの多様性を象徴するものとして虹色が用いられ、性的マイノリティのパレードなどで虹色の旗が掲げられることもあります。

リーブラで今月開催した特別展示も、国際的な「女性に対する暴力根絶運動」パープルリボン・プロジェクトのシンボルカラーの紫色を用いて作品を製作しました。言葉ではなかなか表せない気持ちを、こうした色の物を身につけたり、作品を制作したりすることで、多くの人と共有するきっかけになるのではないかと思います。

2010年11月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	⑥
7	8	9	⑩	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

○ …講座 × …休館日



男女平等参画センター「リーブラ」3～5階

発行元	港区立男女平等参画センター リーブラ
住所	〒108-0023 港区芝浦3-1-47
TEL	03-3456-4149
FAX	03-3456-1254
HP	http://www.minatolibra.jp/
施設利用時間	月～土曜日 9:00～21:30 日曜日 9:00～17:00 *祝日はその曜日に合わせての開館となりません。
窓口受付時間	月～土曜日 9:00～20:00 日曜日 9:00～16:00
休館日	・年末年始(12/29～1/3) ・臨時休館日(2/6/20)